

修士(経営学)ディプロマポリシー

- MBA プログラム
 - GX コンセントレーション
- MBA1 年制プログラム
- 日本・グローバル開発学プログラム

国際大学学則で規定されている本学の目的と国際経営学研究科の教育研究上の目的を達成するために、国際経営学研究科は修士(経営学)の学位を取得するために必要な修了要件と学修の目標を次のとおり定める。

〈学修の目標と目的〉

国際経営学研究科は、各プログラムが定める以下の知識、スキル、学術的態度の修得を学位授与の条件とする。

学修・修得目標	学修・修得後のあるべき能力	適用プログラム
多文化・異文化理解と対応能力 本学の学生は、世界中のさまざまな背景を持った人々の特性や違いに対して優れた感受性と対処能力を持ち、皆が同意する共通目標を確立する能力を有する	<ul style="list-style-type: none"> ■ 世界中のさまざまな背景を持った人々の、それぞれに異なった視点や意見に対して優れた感受性を行動で示すことができる ■ 世界中のさまざまな背景を持った人々の持つ、異なった視点（ときに相対立している場合もある）を前提としつつ、なおも共通して合意できる視点を発見し明確化することができる ■ 多様な国際的背景を持つ人々との適切なコミュニケーションスキルを新たに獲得してゆくことができる 	MBA MBA (GX コンセントレーション) MBA1 年制 日本・グローバル開発学
社会的責任意識 本学の学生は、関係する個人や集団が賢明かつ社会的責任を熟慮した意思決定を行うように働きかける姿勢を有する	<ul style="list-style-type: none"> ■ 社会的責任を全うするリーダーシップについての概念と取るべき行動について理解していることを、場面場面における中核的な問題点や論点を明確に指摘するすることで示すことができる ■ 社会的責任を全うする会社組織の実現に向け、戦略の枠組みを構築することができる ■ 社会的責任を全うするリーダーシップが、なぜ・どのように、グローバル・バリュー・チェーンの中での主な事業活動において統合化されるべきか、主な理由を挙げて説明することができる 	MBA MBA (GX コンセントレーション) MBA1 年制 日本・グローバル開発学
リーダーシップ 本学の学生は、ほかの人々と効果的な協働作業を行うことができ、さらに組織全体の目標に向かって動くように他者に影響を与える能力を持つ	<ul style="list-style-type: none"> ■ リーダーシップの概念と実際の行動方策についての自分の理解を他者に示すことができる ■ 他者の発言に傾聴し、共感を示すことができる 	MBA MBA (GX コンセントレーション) MBA1 年制 日本・グローバル開発学
問題解決能力 本学の学生は、置かれた特定の状況について得られたインプットを分析・理解し、適切な情報の分析評価のもとに確信の形成と最適解の選択を行う	<ul style="list-style-type: none"> ■ 重要課題（イシュー）を定式化・定義する能力を示すことができる ■ 必要に応じて多様な分析や計算を行うことができる ■ 特定の概念やデータを適切に解釈する能力を示すことができる ■ 複数の意思決定上の選択肢を比較評価し、最適と思われる選択を行うことができる 	MBA

<p>経営における分野別の専門知識 本学の学生は世界各国・地域の異なった文化背景を有しているが、出自のいかんにかかわらず、有能なビジネスマネージャーたりうる基本的な経営知識を習得している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 総合経営論に関して十分な理解を有していることを示すことができる ■ 財務論に関して十分な理解を有していることを示すことができる (GX コンセントレーション除く) ■ 情報技術とオペレーション/サプライチェーン・マネジメントに関して十分な理解を有していることを示すことができる ■ マーケティング論に関して十分な理解を有していることを示すことができる (GX コンセントレーション除く) ■ 会計学に関して十分な理解を有していることを示すことができる (GX コンセントレーション除く) ■ データ分析とデジタル技術に関して十分な理解を有していることを示すことができる (日本・グローバル開発学除く) 	<p>MBA MBA (GX コンセントレーション) 日本・グローバル開発学</p>
<p>戦略的意思決定 本学の学生は、社会およびビジネスに関する多様性を適切に評価解釈し、それに基づいた戦略的な決定を下す能力を有する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 組織内外の戦略的状況・文脈を的確に読み取り、戦略的経営のコンセプトを適用・体現することができる ■ データ・情報を収集し適切な解釈を与えることができる ■ 顕著な重圧の元においても、戦略的意思決定を下すことができる ■ 	<p>MBA1 年制</p>
<p>日本的経営およびその論理的背景の理解 本学の学生は、日本的経営およびその論理的背景を、さまざまな視点から理解している。視点の例としては雇用慣行、企業統治、および製造管理技術が含まれる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日本の諸産業および特に製造に関する戦略への理解を有していることを示すことができる ■ 日本の雇用慣行・雇用制度に関する理解を有していることを示すことができる ■ 日本企業における企業統治のあり方と経営理念の効用に関する理解を有していることを示すことができる ■ 日本の社会やビジネス環境への理解を有していることを示すことができる 	<p>日本・グローバル開発学</p>
<p>グリーントランスフォーメーション 本学の学生は、持続可能性の重要性を理解し、持続可能な開発のための戦略を特定する能力を有する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ カーボンニュートラル・循環経済・生物多様性についての理解を有していることを示すことができる ■ エネルギートランジションに関して十分な理解を有していることを示すことができる 	<p>MBA (GX コンセントレーション)</p>

<課程修了の要件>

在学期間に関する要件

学生は、修士課程に2年(6学期間)以上在学しなければならない。1 年制コースの場合は、修士課程に1年(3 学期間)以上在学しなければならない。

授業科目の履修及び修了に必要な単位数に関する要件

学生は、各プログラムで指定された履修要件に従って、指定必修科目、選択必修科目および自由選択科目を履修し、必要な単位数を取得しなければならない。

修了に必要な単位数はプログラム毎に次のとおりとする。

■ MBA プログラム

修士論文を提出する場合： 40 単位以上

研究レポートを提出する場合： 44 単位以上

- MBA1 年制プログラム
32 単位以上
(MBA1 年制プログラムの学生は、研究レポートの提出が義務付けられている。)

- 日本・グローバル開発学プログラム
修士論文を提出する場合： 40 単位以上
研究レポートを提出する場合： 44 単位以上

単位認定

コースシラバスに明記された評価項目について審査したうえで、最終評価スコアが100点満点中 60 点以上、またはそれと同等の評価であった学生に単位を与える。

修士論文/研究レポートの提出に関する要件

学生は、指導教員の指導の下で、審査基準を満たす修士論文または研究レポートを完成させ、期限までに提出しなければならない。

最終試験の要件

修士論文を選択した学生は、審査委員会が口頭により行う最終試験に合格しなければならない。

研究レポートを選択した学生は、審査委員会が決定した実施方法により行われる最終試験に合格しなければならない。

GPA の要件

学生は最終学期の成績が確定した段階で、少なくとも 2.5 ポイント(4.0 ポイント中)以上の GPA を取得していなければならない。